解禁	テレビ・ラジオ インターネット	6月2日	教育委員会 案件報告終了後
	新　聞	6月2日	夕刊以降

公立高等学校配置計画案

（令和３年度（2021年度）～５年度（2023年度））

令和２年（２０２０年）６月

北海道教育委員会

目　　次

Ⅰ　公立高等学校配置計画案（令和３年度（2021年度）～５年度（2023年度））策定の考え方

1　趣旨 …… 1

2　中卒者数の見込み …… 1

3　基本的考え方 …… 1

4　配置計画案（令和３年度（2021年度）～５年度（2023年度））の概要 … 2

5　地域連携特例校の再編整備の留保 …… 3

6　配置計画の変更 …… 3

Ⅱ　公立高等学校配置計画案（令和３年度（2021年度）～５年度（2023年度））の内容

1　中学校卒業者数 …… 4

2　欠員の状況 …… 4

3　定員及び中学校卒業者数に対する割合 …… 4

4　配置計画案（令和３年度（2021年度）～５年度（2023年度））の学校別内訳 …… 5

5　中学校卒業者数の推計及び推移 …… 10

Ⅲ　公立高等学校配置計画案（令和３年度（2021年度）～５年度（2023年度））学区別個表

空知南学区 …… 12
空知北学区 …… 13
石狩学区 …… 14
後志学区 …… 16
胆振西学区 …… 17
胆振東学区 …… 18
日高学区 …… 19
渡島学区 …… 20
檜山学区 …… 21
上川南学区 …… 22
上川北学区 …… 23
留萌学区 …… 24
宗谷学区 …… 25
オホーツク中学区 …… 26
オホーツク東学区 …… 27
オホーツク西学区 …… 28
十勝学区 …… 29
釧路学区 …… 30
根室学区 …… 31

Ⅰ　公立高等学校配置計画案（令和３年度（2021年度）～５年度（2023年度））策定の考え方

１　趣旨

「公立高等学校配置計画」（以下「配置計画」という。）は、高等学校進学希望者数に見合った定員を確保することを基本として、中学校卒業者数（以下「中卒者数」という。）の状況を踏まえ、生徒の多様な学習ニーズ、進路動向などに対応した学校・学科の配置や規模の適正化を図るために、令和３年度（2021年度）から令和５年度（2023年度）までの高校配置の計画を策定するとともに、令和６年度（2024年度）から令和９年度（2027年度）までの見通しを示したものである。

２　中卒者数の見込み

本道の中卒者数は、令和３年（2021年）に４万1,004人、令和４年（2022年）に４万1,859人、令和５年（2023年）に４万1,200人となる見込みであり、その後も総じて減少傾向にある。

３　基本的考え方

配置計画の策定に当たっては、平成30年（2018年）３月に策定した「これからの高校づくりに関する指針」（以下「指針」という。）に基づき、中卒者数の増減に適切に対応し、教育水準の維持向上などを図る観点から、地域の実情、私立高校の配置状況等を考慮しながら定員の調整や学校の再編整備等を行うとともに、都市部において複数の高校が設置されている場合、望ましい規模の学校についても、地域の実情などに応じて再編整備を行う。

また、生徒の多様な学習ニーズなどに対応するため、次のとおり多様なタイプの高校づくり等を推進する。

(1) 職業学科の学科転換

産業構造の変化や学科の配置状況、生徒の進路動向などを考慮し、職業学科の学科転換を検討する。

(2) 総合学科の設置

生徒の多様な能力・適性、興味・関心、進路希望等に応じて、普通教育と専門教育に関する多様な科目を選択して学ぶことができ、幅広い進路希望に対応が可能となる総合学科の設置を進める。

(3) 単位制の導入

学年による教育課程の区分を設けず、高校の生徒が必ず学ばなければならない科目のほか、学校が開設した多数の選択科目の中から、興味・関心や進路希望等に応じて自分で科目を選択し、主体的な学習が可能となる単位制の導入を進める。

(4) 地域連携特例校の導入

他の高校への通学が困難な地域を抱え、かつ地元からの進学率が高い(普通科はおよそ1/2、専門学科はおよそ1/4)第１学年１学級の高校を地域連携特例校とし、協力校からの出張授業や通信機器を活用した教育活動への支援等により、教育環境の充実を図る。

４　配置計画案（令和３年度（2021年度）～５年度（2023年度））の概要

昨年決定した令和３年度（2021年度）及び令和４年度（2022年度）の計画を一部変更するとともに、新たに令和５年度（2023年度）の配置計画を策定する。

(1) 学級定員

「公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律」に基づき、１学級の定員は40人とする。

(2) 令和３年度（2021年度）（令和元年度（2019年度）決定）高校配置計画の変更

全日制課程

ア　学級減

１学級減とする江別高校の学科は、生徒の進路動向の変化を考慮し、普通科から事務情報科に変更する。

イ　単位制の導入

滝川高校など４校で、生徒の多様な興味・関心や進路希望等に応じた主体的な学習が可能となるよう、単位制を導入する。

なお、北見緑陵高校は、普通科フィールド制から単位制に転換する。

ウ　地域連携特例校の導入

教育環境の維持向上を図るため、新たに月形高校を地域連携特例校とする。

エ　その他

令和２年度（2020年度）道立高等学校入学者選抜の結果、第２次募集後の入学者に１学級相当以上の欠員が生じ学級減を行った長沼高校など21校のうち、再編を予定している伊達緑丘高校を除く20校の令和３年度（2021年度）の募集学級数は、中卒者数の状況や生徒の進路動向等を精査し、計画決定時に公表する。

(3) 令和４年度（2022年度）（令和元年度（2019年度）決定）高校配置計画の変更

全日制課程

ア　理数科の設置

理数教育の充実を図るため、函館中部高校及び北見北斗高校で、普通科１学級を理数科に転換する。

イ　普通科フィールド制の転換

生徒の特性や進路希望等を踏まえ、教育課程の工夫・改善を図るため、札幌丘珠高校及び野幌高校は普通科に、千歳北陽高校は総合学科に、それぞれ転換する。

〈新たな特色ある高校〉

野幌高校及び千歳北陽高校は、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着や一人一人の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度の育成に重点を置いた学校に位置付ける。

(4) 令和５年度（2023年度）高校配置計画

全日制課程

ア　学級減

通学区域内の中卒者数を基礎として、生徒の進路動向や学校・学科の配置状況、各学校の在籍状況などを勘案し、小樽潮陵高校など７校で７学級の減を行う。

イ　再編整備

中卒者数の状況、学校規模、募集定員に対する欠員の状況、地元からの進学率などを勘案し、留辺蘂高校を募集停止とする。

５　地域連携特例校の再編整備の留保

第１学年１学級の高校のうち、地域連携特例校及び農業、水産、看護又は福祉に関する学科を置く高校については、５月１日現在の第１学年の在籍者数が20人未満となり、その後も生徒数の増が見込まれない場合は再編整備を進めることとしているが、こうした状況となっている月形高校、穂別高校、南茅部高校及び上ノ国高校は、所在市町村をはじめとした地域における、高校の教育機能の維持向上に向けた具体的取組とその効果を勘案し、再編整備を留保する。

６　配置計画の変更

配置計画を策定した後、急激な中卒者数の増減や生徒の進路動向に大きな変動が生じた場合など、学区における中卒者の進路動向等を見極めて、毎年度再検討するほか、次の(1)～(4)に掲げる場合にあっては配置計画を変更することとする。

(1) 入学者選抜における第２次募集の合格発表後、配置計画で示した募集人員に対し１学級相当以上の欠員が生じた場合

(2) ５月１日現在の第１学年の在籍者が指針に示した人数要件に該当し、その後も生徒数の増が見込まれない場合

(3) 学級減と併せた学科転換、地域連携特例校の導入等を実施する場合

(4) 市町村立高校について、当該市町村において募集人員等の変更を行った場合

Ⅱ　公立高等学校配置計画案（令和３年度（2021年度）～５年度（2023年度））の内容

１　中学校卒業者数

令和２年(2020年)(実績)	42,496人	(対前年比 1,759人減少)
令和３年(2021年)(推計)	41,004人	(対前年比 1,492人減少)
令和４年(2022年)(推計)	41,859人	(対前年比 855人増加)
令和５年(2023年)(推計)	41,200人	(対前年比 659人減少)

２　欠員の状況　　（令和２年（2020年）5月1日現在）

公立高等学校全日制	公立高等学校定時制	私立高等学校	合　計
3,593人　(405人)	1,307人　(-9人)	825人　(-142人)	5,725人　(254人)

※（　）は対前年増減

３　定員及び中学校卒業者数に対する割合

区分			公立 全日制	公立 定時制	公立 中等教育学校	高等専門学校	私立	計
令和2年度		定員（人）	31,330	2,320	240	720	11,257	45,867
		割合（%）	73.7	5.5	0.6	1.7	26.5	107.9
公立高等学校配置計画案	令和3年度	学級増（人）	40	0	0	0	0	40
		学級減（人）	-600	-40	0	0	0	-640
		新設（人）	280	0	0	0	0	280
		募集停止（人）	-320	-40	0	0	0	-360
		差引増減（人）	-600	-80	0	0	0	-680
		定員（人）	30,730	2,240	240	720	11,257	45,187
		割合（%）	74.9	5.5	0.6	1.8	27.5	110.2
	令和4年度	学級増（人）	200	0	0	0	0	200
		学級減（人）	0	0	0	0	0	0
		新設（人）	0	0	0	0	0	0
		募集停止（人）	0	0	0	0	0	0
		差引増減（人）	200	0	0	0	0	200
		定員（人）	30,930	2,240	240	720	11,257	45,387
		割合（%）	73.9	5.4	0.6	1.7	26.9	108.4
	令和5年度	学級増（人）	0	0	0	0	0	0
		学級減（人）	-280	0	0	0	0	-280
		新設（人）	0	0	0	0	0	0
		募集停止（人）	-40	0	0	0	0	-40
		差引増減（人）	-320	0	0	0	0	-320
		定員（人）	30,610	2,240	240	720	11,257	45,067
		割合（%）	74.3	5.4	0.6	1.7	27.3	109.4

※１　高等専門学校及び私立の定員については、令和３年度（2021年度）以降は見込みを記載。
※２　霧多布高校（浜中町立）は、1学級の定員を30人としている。
※３　えりも高校（えりも町立）は、1学級の定員を35人としている。

４　配置計画案（令和３年度（2021年度）～５年度（2023年度））の学校別内訳

◎ 令和３年度（2021年度）～５年度（2023年度）高校配置計画／全日制課程

(1) 令和２年度（2020年度）道立高等学校入学者選抜における第２次募集後に学級減となった学校の取扱い

学　区	設置	学校名	課程	小学科	Ｒ２（2020）募集学級数	Ｒ２（2020）開設学級数	Ｒ３（2021）募集学級数
空知南	道	長沼	全	普通	2	1	計画決定時に公表
空知北	道	砂川	全	普通	3	2	
石狩	道	札幌東豊	全	普通	6	4	
	道	札幌あすかぜ	全	普通	7	6	
	道	野幌	全	普通	4	3	
	道	千歳北陽	全	普通	5	4	
後志	道	岩内	全	普通	3	2	
日高	道	静内	全	普通	5	4	
	道	浦河	全	総合	4	3	
渡島	道	森	全	総合	2	1	
上川南	道	美瑛	全	普通	2	1	
オホーツク東	道	斜里	全	総合	2	1	
十勝	道	音更	全	普通	4	3	
	道	清水	全	総合	4	3	
	道	鹿追	全	普通	2	1	
	道	大樹	全	普通	2	1	
	道	本別	全	普通	2	1	
釧路	道	白糠	全	普通	2	1	
	道	標茶	全	総合	3	2	
根室	道	標津	全	普通	2	1	
胆振西	道	伊達緑丘	全	普通	4	3	伊達と再編
計		２１校					

(2) 学級増減

① 学級増

実施年度	学　区	設置	学校名	課程	小学科	募集学級数 実施前	募集学級数 実施後	学級増減数	１学年総学級数
Ｒ３（2021）	石狩	道	札幌真栄	全	普通	4	5	＋１	４学級→５学級
Ｒ４（2022）	石狩	道	札幌月寒	全	普通	7	8	＋１	７学級→８学級
		道	札幌北陵	全	普通	7	8	＋１	７学級→８学級
		道	札幌手稲	全	普通	7	8	＋１	７学級→８学級
		道	札幌丘珠	全	普通	7	8	＋１	７学級→８学級
		道	恵庭北	全	普通	7	8	＋１	７学級→８学級
	（小計）		５校					＋５	
Ｒ５（2023）	－								
計			６校					＋６（＋２４０）	

② 学級減　（学科名の前の※印は、令和元年度（2019年度）に決定した配置計画からの変更。）

実施年度	学区	設置	学校名	課程	小学科	募集学級数		学級増減数	１学年総学級数
						実施前	実施後		
Ｒ３（2021）	空知北	道	滝川	全	普通	5	4	－1	６学級→５学級
	石狩	道	札幌東陵	全	普通	8	7	－1	８学級→７学級
		道	札幌英藍	全	普通	8	7	－1	８学級→７学級
		道	江別	全	※事務情報	2	1	－1	８学級→７学級
		道	北広島	全	普通	8	7	－1	８学級→７学級
		市	市立札幌藻岩	全	普通	8	6	－2	８学級→６学級
	胆振西	道	登別青嶺	全	普通	4	3	－1	４学級→３学級
	胆振東	道	苫小牧総合経済	全	流通経済	2	1	－1	４学級→３学級
	渡島	道	函館中部	全	普通	6	5	－1	６学級→５学級
	上川南	道	旭川西	全	普通	5	4	－1	６学級→５学級
		道	旭川商業	全	情報処理	2	1	－1	６学級→５学級
	オホーツク中	道	北見緑陵	全	普通	4	3	－1	４学級→３学級
	十勝	道	帯広柏葉	全	普通	7	6	－1	７学級→６学級
	根室	道	中標津	全	商業(大学科)	2	1	－1	６学級→５学級
	（小計）		１４校					－１５	
Ｒ４（2022）	－								
Ｒ５（2023）	後志	道	小樽潮陵	全	普通	6	5	－1	６学級→５学級
	胆振西	道	室蘭栄	全	普通	4	3	－1	６学級→５学級
	渡島	市	市立函館	全	普通	6	5	－1	６学級→５学級
	上川南	道	旭川北	全	普通	6	5	－1	６学級→５学級
		道	旭川南	全	総合	6	5	－1	６学級→５学級
		道	旭川永嶺	全	普通	6	5	－1	６学級→５学級
	オホーツク中	道	美幌	全	（検討中）	（検討中）		－1	４学級→３学級
	（小計）		７校					－７	
計			２１校					－２２（－８８０）	

・Ｒ３（2021）の中標津の学級減については、「(5)　職業学科の学科転換」を参照。

(3) 再編整備

① 再編統合等

実施年度	学区	設置	学校名	課程	小学科	募集学級数		学級増減数	摘要
						実施前	実施後		
Ｒ３（2021）	胆振西	道	伊達	全	普通	3	0	－3	３学級→０学級
		道	伊達緑丘	全	普通	3	0	－3	３学級→０学級
		道	新設校	全	普通	0	6	＋6	６学級 伊達校舎を使用
Ｒ４（2022）	－								
Ｒ５（2023）	－								
計			再編等に伴う募集停止２校、新設１校					±０（±０）	

② 募集停止

実施年度	学区	設置	学校名	課程	小学科	募集学級数		学級増減数	摘要
						実施前	実施後		
Ｒ３（2021）	空知南	道	南幌	全	普通	1	0	－1	１学級→０学級
Ｒ４（2022）	－								

実施年度	学　　区	設置	学　校　名	課程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	摘　　要
						実施前	実施後		
Ｒ５ (2023)	オホーツク中	道	留　辺　蘂	全	総　　合	1	0	－1	１学級→０学級
計			２校					－２ （－８０）	

(4) 再編整備・移管

実施年度	学　　区	設置	学　校　名	課程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	摘　　要
						実施前	実施後		
Ｒ３ (2021)	オホーツク東	道	女　満　別	全	普　　通	1	0	－1	１学級→０学級
		町	東　藻　琴	定	生産科学	［1］	［0］	［－1］	［１学級→０学級］
		町	新　設　校	全	総　　合	0	1	＋1	１学級 移管予定の女満別及び東藻琴の校舎を使用
Ｒ４ (2022)	－								
Ｒ５ (2023)	－								
計			再編等に伴う募集停止2校、新設1校					±０ （±０）	

・Ｒ３（2021）の東藻琴の学級減については、「◎令和３年度（2021年度）～５年度（2023年度）高校配置計画／定時制課程」を参照。

(5) 職業学科の学科転換（再編によるものを除く）

実施年度	学　　区	設置	学　校　名	課程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	摘　　要
						実施前	実施後		
Ｒ３ (2021)	根　　室	道	中　標　津	全	商　　業	1	0	－1	（再掲） １学年総学級数 ６学級→５学級
					事 務 情 報	1	0	－1	
					総合ビジネス	0	1	＋1	
	（小計）		１校					－1	
Ｒ４ (2022)	－								
Ｒ５ (2023)	－								
計			１校					－1 （－４０）	

(6) 理数科の設置（学校名の前の※印は、令和元年度（2019年度）に決定した配置計画からの変更。）

実施年度	学　　区	設置	学　校　名	課程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	摘　　要
						実施前	実施後		
Ｒ３ (2021)	－								
Ｒ４ (2022)	渡　　島	道	※函館中部	全	普　　通	5	4	－1	
					理　　数	0	1	＋1	
	オホーツク中	道	※北見北斗	全	普　　通	6	5	－1	
					理　　数	0	1	＋1	
Ｒ５ (2023)	－								
計			２校					±０ （±０）	

(7) 総合学科の設置（学校名の前の※印は、令和元年度（2019年度）に決定した配置計画からの変更。）

実施年度	学区	設置	学校名	課程	小学科	募集学級数		学級増減数	摘要
						実施前	実施後		
R３ (2021)	オホーツク東	町	新設校	全	総合	－	1	－	（再掲） 女満別・東藻琴の再編
R４ (2022)	石狩	道	※千歳北陽	全	普通	＊	0	＊	
					総合	0	＊	＊	
R５ (2023)	－								
計			２校					±０ （±０）	

＊千歳北陽は令和２年度道立高等学校入学者選抜における第２次募集後の学級減となったため、Ｒ４（2022）の募集学級数及び学級増減数は、中卒者数の状況などを勘案し、計画決定時に公表する。

(8) 単位制の導入（学校名の前の※印は、令和元年度（2019年度）に決定した配置計画からの変更。）

実施年度	学区	設置	学校名	課程	小学科	募集学級数	摘要
R３ (2021)	空知北	道	※滝川	全	普通	4	
					理数	1	
	石狩	市	市立札幌藻岩	全	普通	6	
	胆振西	道	新設校	全	普通	6	伊達・伊達緑丘の再編
		道	※登別青嶺	全	普通	3	
	上川南	道	※旭川西	全	普通	4	
					理数	1	
	オホーツク中	道	※北見緑陵	全	普通	3	フィールド制の転換
	（小計）		６校				
R４ (2022)	釧路	市	釧路北陽	全	普通	5	フィールド制の転換
R５ (2023)	－						
計			７校				

(9) 普通科フィールド制の転換・新たな特色ある高校

（学校名の前の※印は、令和元年度（2019年度）に決定した配置計画からの変更。）

実施年度	学区	設置	学校名	課程	募集学級数	摘要
R３ (2021)	オホーツク中	道	※北見緑陵	全	3	（再掲）単位制を導入
R４ (2022)	石狩	道	※札幌丘珠	全	8	普通科に転換
		道	※野幌	全	＊	新たな特色ある高校に位置付け 普通科に転換
		道	※千歳北陽	全	＊	新たな特色ある高校に位置付け （再掲）総合学科に転換
	釧路	市	釧路北陽	全	5	（再掲）単位制を導入
	（小計）		４校			
R５ (2023)	－					
計			５校			

＊野幌及び千歳北陽は令和２年度道立高等学校入学者選抜における第２次募集後の学級減となったため、Ｒ４（2022）の募集学級数は、中卒者数の状況などを勘案し、計画決定時に公表する。

(10) 地域連携特例校の導入（学校名の前の※印は、令和元年度（2019年度）に決定した配置計画からの変更。）

実施年度	学　　区	設置	学　校　名	課程	小　学　科	協 力 校	摘　　要
Ｒ３ (2021)	空　知　南	道	※月　　形	全	普　　通	岩見沢東	
Ｒ４ (2022)	－						
Ｒ５ (2023)	－						
計			１校			１校	

◎ 令和３年度（2021年度）～５年度（2023年度）高校配置計画／定時制課程

実施年度	学　　区	設置	学　校　名	課程	小 学 科	募集学級数		学級増減数	１学年総学級数
						実施前	実施後		
Ｒ３ (2021)	胆　振　東	道	苫小牧工業	定	機　　械	１	０	－１	２学級→１学級
					建　　築	１	０	－１	
					工業技術	０	１	＋１	
	オホーツク東	町	東　藻　琴	定	生産科学	１	０	－１	（再掲） 女満別（全日制）と再編 １学級→０学級
	（小計）		２校					－２	
Ｒ４ (2022)	－								
Ｒ５ (2023)	－								
計			２校					－２ （－８０）	

５　中学校卒業者数の推計及び推移

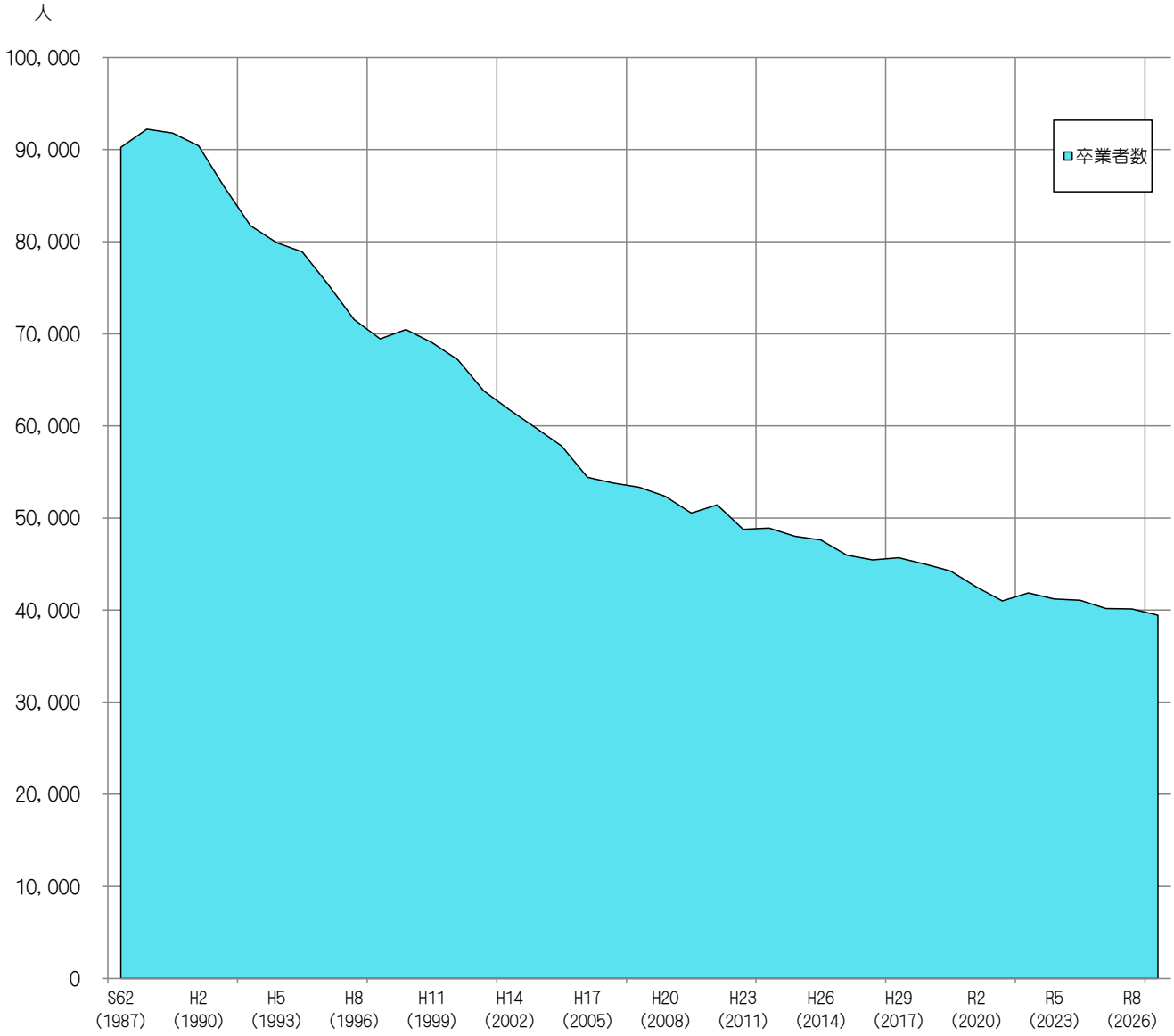
中　学　校　卒　業　者　数　推　計　表　（　令和２年(2020年)推計　）

	令和２年 (2020年)	令和３年 (2021年)	令和４年 (2022年)	令和５年 (2023年)	令和６年 (2024年)	令和７年 (2025年)	令和８年 (2026年)	令和９年 (2027年)
空知南	1, 135	1, 125 ▲ 10	1, 090 ▲ 35	1, 107 ＋17	1, 001 ▲ 106	1, 056 ＋55	1, 037 ▲ 19	1, 024 ▲ 13
空知北	927	851 ▲ 76	897 ＋46	864 ▲ 33	829 ▲ 35	807 ▲ 22	809 ＋2	757 ▲ 52
石狩	19, 110	18, 742 ▲ 368	19, 349 ＋607	19, 404 ＋55	19, 529 ＋125	19, 324 ▲ 205	19, 494 ＋170	19, 145 ▲ 349
後志	1, 454	1, 421 ▲ 33	1, 429 ＋8	1, 406 ▲ 23	1, 363 ▲ 43	1, 368 ＋5	1, 339 ▲ 29	1, 304 ▲ 35
胆振西	1, 486	1, 364 ▲ 122	1, 390 ＋26	1, 350 ▲ 40	1, 325 ▲ 25	1, 220 ▲ 105	1, 199 ▲ 21	1, 200 ＋1
胆振東	1, 808	1, 700 ▲ 108	1, 747 ＋47	1, 669 ▲ 78	1, 693 ＋24	1, 690 ▲ 3	1, 674 ▲ 16	1, 617 ▲ 57
日高	514	509 ▲ 5	550 ＋41	503 ▲ 47	491 ▲ 12	468 ▲ 23	479 ＋11	456 ▲ 23
渡島	3, 125	2, 963 ▲ 162	2, 983 ＋20	2, 781 ▲ 202	2, 939 ＋158	2, 767 ▲ 172	2, 659 ▲ 108	2, 699 ＋40
檜山	245	243 ▲ 2	226 ▲ 17	221 ▲ 5	189 ▲ 32	203 ＋14	214 ＋11	199 ▲ 15
上川南	3, 597	3, 433 ▲ 164	3, 500 ＋67	3, 337 ▲ 163	3, 312 ▲ 25	3, 213 ▲ 99	3, 196 ▲ 17	3, 173 ▲ 23
上川北	470	467 ▲ 3	474 ＋7	454 ▲ 20	431 ▲ 23	430 ▲ 1	395 ▲ 35	401 ＋6
留萌	331	301 ▲ 30	289 ▲ 12	307 ＋18	280 ▲ 27	273 ▲ 7	300 ＋27	262 ▲ 38
宗谷	512	504 ▲ 8	500 ▲ 4	464 ▲ 36	450 ▲ 14	427 ▲ 23	405 ▲ 22	391 ▲ 14
オホーツク中	1, 235	1, 131 ▲ 104	1, 171 ＋40	1, 142 ▲ 29	1, 187 ＋45	1, 102 ▲ 85	1, 172 ＋70	1, 055 ▲ 117
オホーツク東	503	510 ＋7	494 ▲ 16	439 ▲ 55	500 ＋61	464 ▲ 36	466 ＋2	482 ＋16
オホーツク西	476	456 ▲ 20	431 ▲ 25	425 ▲ 6	399 ▲ 26	397 ▲ 2	416 ＋19	413 ▲ 3
十勝	2, 960	2, 862 ▲ 98	2, 851 ▲ 11	2, 889 ＋38	2, 862 ▲ 27	2, 758 ▲ 104	2, 748 ▲ 10	2, 760 ＋12
釧路	1, 878	1, 769 ▲ 109	1, 815 ＋46	1, 790 ▲ 25	1, 657 ▲ 133	1, 627 ▲ 30	1, 585 ▲ 42	1, 522 ▲ 63
根室	730	653 ▲ 77	673 ＋20	648 ▲ 25	619 ▲ 29	585 ▲ 34	541 ▲ 44	588 ＋47
合計	42, 496	41, 004 ▲ 1, 492	41, 859 ＋855	41, 200 ▲ 659	41, 056 ▲ 144	40, 179 ▲ 877	40, 128 ▲ 51	39, 448 ▲ 680

※中学校卒業者数は、令和２年（2020年）5月1日現在の小学校1年生から中学校3年生までの在籍児童･生徒数を基に、過去の社会的増減等を勘案した推計値。
※令和２年（2020年）は実数、令和３年（2021年）以降の上段は中卒者数、下段は前年比増減。

北海道における中学校卒業（見込）者数の推移
（昭和62年（1987年）～令和９年（2027年））

（注）１　昭和62年（1987年）～令和２年（2020年）は実卒業者数である。
　　２　令和３年（2021年）～令和９年（2027年）は学校基本調査（令和２年（2020年）５月１日現在）に準じた調査による在籍児童・生徒数を基に推計した。



年	S62 (1987)	S63 (1988)	H元 (1989)	H2 (1990)	H3 (1991)	H4 (1992)	H5 (1993)	H6 (1994)	H7 (1995)	H8 (1996)	H9 (1997)	H10 (1998)	H11 (1999)
卒業者数	90,257	92,222	91,810	90,400	85,909	81,733	79,911	78,884	75,348	71,550	69,441	70,462	69,047
増　減	+1,298	+1,965	-412	-1,410	-4,491	-4,176	-1,822	-1,027	-3,536	-3,798	-2,109	+1,021	-1,415

年	H12 (2000)	H13 (2001)	H14 (2002)	H15 (2003)	H16 (2004)	H17 (2005)	H18 (2006)	H19 (2007)	H20 (2008)	H21 (2009)	H22 (2010)	H23 (2011)	H24 (2012)
卒業者数	67,180	63,800	61,714	59,783	57,804	54,415	53,778	53,330	52,339	50,537	51,437	48,778	48,907
増　減	-1,867	-3,380	-2,086	-1,931	-1,979	-3,389	-637	-448	-991	-1,802	+900	-2,659	+129

年	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R元 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
卒業者数	48,015	47,620	45,958	45,458	45,689	44,989	44,255	42,496	41,004	41,859	41,200	41,056	40,179
増　減	-892	-395	-1,662	-500	+231	-700	-734	-1,759	-1,492	+855	-659	-144	-877

年	R8 (2026)	R9 (2027)
卒業者数	40,128	39,448
増　減	-51	-680

Ⅲ　公立高等学校配置計画案（令和３年度（2021年度）～５年度（2023年度））学区別個表

空知南学区高校配置計画案

区　分	Ｒ２（2020）	Ｒ３（2021）	Ｒ４（2022）	Ｒ５（2023）	Ｒ６（2024）	Ｒ７（2025）	Ｒ８（2026）	Ｒ９（2027）	令和３～９（2021～2027）年までの増減	令和６～９（2024～2027）年までの増減
学区内中卒者数	1,135	1,125	1,090	1,107	1,001	1,056	1,037	1,024	▲ 111	▲ 83
対前年増減		▲ 10	▲ 35	＋ 17	▲ 106	＋ 55	▲ 19	▲ 13		
岩見沢市中卒者数	（ 640 ）	（ 621 ）	（ 634 ）	（ 612 ）	（ 589 ）	（ 579 ）	（ 608 ）	（ 601 ）	▲ 39	▲ 11
対前年増減		▲ 19	＋ 13	▲ 22	▲ 23	▲ 10	＋ 29	▲ 7		
美唄市中卒者数	（ 122 ）	（ 138 ）	（ 131 ）	（ 130 ）	（ 112 ）	（ 127 ）	（ 110 ）	（ 94 ）	▲ 28	▲ 36
対前年増減		＋ 16	▲ 7	▲ 1	▲ 18	＋ 15	▲ 17	▲ 16		
三笠市中卒者数	（ 49 ）	（ 61 ）	（ 54 ）	（ 40 ）	（ 43 ）	（ 46 ）	（ 49 ）	（ 33 ）	▲ 16	▲ 7
対前年増減		＋ 12	▲ 7	▲ 14	＋ 3	＋ 3	＋ 3	▲ 16		
夕張市中卒者数	（ 38 ）	（ 32 ）	（ 32 ）	（ 36 ）	（ 34 ）	（ 31 ）	（ 24 ）	（ 35 ）	▲ 3	▲ 1
対前年増減		▲ 6	± 0	＋ 4	▲ 2	▲ 3	▲ 7	＋ 11		

学校名	令和２年度（2020年度）の状況 学科及び募集学級数 普通	職業	計	Ｒ２（2020）欠員	令和３年度（2021年度）	令和４年度（2022年度）	令和５年度（2023年度）	令和６～９年度（2024～2027年度）までの見通し	摘要
岩見沢東	5		5	17				○４年間で２～３学級相当の調整が必要 ○欠員の状況や学校・学科の配置状況を考慮して、岩見沢市内において再編整備を含めた公立高校全体での定員調整の検討が必要 ○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、在り方の検討が必要	月形、夕張の協力校
単　岩見沢西	3		3	17					
岩見沢農業		農　7	7	62					
*岩見沢緑陵	3	商　2	5	5					
総　美唄尚栄	2		2	28					
美唄聖華		看　2	2	20					
*三　笠		家　1	1	3					
月　形	1		1	25	地域連携特例校導入（計画変更）				再編整備留保
地　夕　張	1		1	19					
長　沼	2→1		1	7	（計画決定時に公表）				Ｒ２入選　２次募集後学級減
栗　山	2		2	26					
南　幌	1		1	33	普▲1				
12校	20→19	12	31	262	普▲1				

注１　学科種別の「普通」には、普通科のほか、総合学科、理数、外国語、体育等の専門学科を含む。（以下同）

注２　学校名の「単」は単位制、「総」は総合学科、「フ」はフィールド制、「中高」は連携型中高一貫教育校、「中等」は中等教育学校、「地」は地域連携特例校、「産」は産業キャンパス。（以下同）

注３　学校名の＊は市町村立学校。（以下同）

注４　（　　）は定時制課程（計欄には含まない、関係学校のみ表示）。（以下同）

注５　令和２年度（2020年度）募集学級数の「→」表示は、第２次募集後の学級減を実施したことを示す。（以下同）
なお、令和３年度（2021年度）の募集学級数は、中卒者数の状況や生徒の進路動向等を精査し、計画決定時に公表する。（以下同）

注６「令和６～９年度（2024～2027年度）までの見通し」欄の学級数の調整については令和９年（2027年）と令和５年（2023年）の中卒者数の比較により算出。（以下同）

空知北学区高校配置計画案

区　分	R２ (2020)	R３ (2021)	R４ (2022)	R５ (2023)	R６ (2024)	R７ (2025)	R８ (2026)	R９ (2027)	令和３～９ (2021～2027) 年までの増減	令和６～９ (2024～2027) 年までの増減
学区内中卒者数	927	851	897	864	829	807	809	757	▲ 170	▲ 107
対前年増減		▲ 76	＋ 46	▲ 33	▲ 35	▲ 22	＋ 2	▲ 52		
滝川市中卒者数	(304)	(278)	(317)	(300)	(273)	(287)	(282)	(294)	▲ 10	▲ 6
対前年増減		▲ 26	＋ 39	▲ 17	▲ 27	＋ 14	▲ 5	＋ 12		
砂川市中卒者数	(132)	(128)	(119)	(121)	(122)	(110)	(107)	(87)	▲ 45	▲ 34
対前年増減		▲ 4	▲ 9	＋ 2	＋ 1	▲ 12	▲ 3	▲ 20		
歌志内市中卒者数	(23)	(13)	(18)	(15)	(13)	(10)	(6)	(10)	▲ 13	▲ 5
対前年増減		▲ 10	＋ 5	▲ 3	▲ 2	▲ 3	▲ 4	＋ 4		
芦別市中卒者数	(72)	(78)	(73)	(55)	(63)	(58)	(54)	(50)	▲ 22	▲ 5
対前年増減		＋ 6	▲ 5	▲ 18	＋ 8	▲ 5	▲ 4	▲ 4		
赤平市中卒者数	(54)	(45)	(60)	(63)	(50)	(49)	(44)	(45)	▲ 9	▲ 18
対前年増減		▲ 9	＋ 15	＋ 3	▲ 13	▲ 1	▲ 5	＋ 1		
深川市中卒者数	(144)	(123)	(123)	(125)	(116)	(113)	(120)	(102)	▲ 42	▲ 23
対前年増減		▲ 21	± 0	＋ 2	▲ 9	▲ 3	＋ 7	▲ 18		

学校名	令和２年度 (2020年度)の状況 学科及び募集学級数 普通	職業	計	R２ (2020) 欠員	令和３年度 (2021年度)	令和４年度 (2022年度)	令和５年度 (2023年度)	令和６～９年度（2024～2027年度） までの見通し	摘要
滝　川	6		6	11	普▲1 単位制導入 (計画変更)			○４年間で２～３学級相当の調整が必要 ○欠員の状況やこれまでの調整を考慮し、再編整備や学校・学科の配置の在り方を含めた定員調整の検討が必要 ○滝川市内において、欠員の状況や望ましい学校規模を下回る学校があることを考慮し、公立高校全体での再編を含めた早急な定員調整の検討が必要 ○深川市内において、欠員の状況や望ましい学校規模を下回る学校があることを考慮し、再編を含めた早急な定員調整の検討が必要 ○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、在り方の検討が必要 ○定時制課程について、５月１日現在の第１学年の在籍者数が１０人未満となり、その後も生徒数の増が見込まれない場合は、再編整備の検討が必要としているが、定時制課程の在り方については、国において検討が進められているところであり、こうした国の動向も踏まえることが必要（滝川）	
滝川工業		工 2	2	43					
*滝 川 西	3	商 3	6	3					
単　砂　川	3→2		2	13	計画決定時に公表				R２入選　２次募集後学級減
奈井江商業		商 1	1	19					
新十津川農業		農 1	1	10					
芦　別	2		2	23					
深 川 西	3		3	20					
深 川 東		農 1 商 1	2	52					
9校	17 →16	9	25	194	普▲1				

石狩学区高校配置計画案

区　分	R２ (2020)	R３ (2021)	R４ (2022)	R５ (2023)	R６ (2024)	R７ (2025)	R８ (2026)	R９ (2027)	令和３～９ (2021～2027)年までの増減	令和６～９ (2024～2027)年までの増減
学区内中卒者数	19, 110	18, 742	19, 349	19, 404	19, 529	19, 324	19, 494	19, 145	＋ 35	▲ 259
対前年増減		▲ 368	＋ 607	＋ 55	＋ 125	▲ 205	＋ 170	▲ 349		
札幌市中卒者数	(15, 044)	(14, 843)	(15, 263)	(15, 452)	(15, 486)	(15, 418)	(15, 607)	(15, 246)	＋ 202	▲ 206
対前年増減		▲ 201	＋ 420	＋ 189	＋ 34	▲ 68	＋ 189	▲ 361		
江別市中卒者数	(1, 176)	(1, 144)	(1, 215)	(1, 137)	(1, 207)	(1, 157)	(1, 268)	(1, 269)	＋ 93	＋ 132
対前年増減		▲ 32	＋ 71	▲ 78	＋ 70	▲ 50	＋ 111	＋ 1		
千歳市中卒者数	(859)	(886)	(893)	(855)	(900)	(836)	(810)	(798)	▲ 61	▲ 57
対前年増減		＋ 27	＋ 7	▲ 38	＋ 45	▲ 64	▲ 26	▲ 12		
恵庭市中卒者数	(635)	(614)	(659)	(690)	(662)	(675)	(658)	(662)	＋ 27	▲ 28
対前年増減		▲ 21	＋ 45	＋ 31	▲ 28	＋ 13	▲ 17	＋ 4		
北広島市中卒者数	(642)	(587)	(616)	(626)	(588)	(635)	(576)	(600)	▲ 42	▲ 26
対前年増減		▲ 55	＋ 29	＋ 10	▲ 38	＋ 47	▲ 59	＋ 24		
石狩市中卒者数	(611)	(541)	(555)	(526)	(553)	(480)	(477)	(469)	▲ 142	▲ 57
対前年増減		▲ 70	＋ 14	▲ 29	＋ 27	▲ 73	▲ 3	▲ 8		

学校名	令和２年度(2020年度)の状況 学科及び募集学級数 普通	職業	計	R２(2020)欠員	令和３年度(2021年度)	令和４年度(2022年度)	令和５年度(2023年度)	令和６～９年度（2024～2027年度）までの見通し	摘要
札 幌 東	8		8	0				○４年間で４～５学級相当の調整が必要 ○各区、市町村ごとの中卒者数の状況、欠員の状況やこれまでの調整などを考慮した定員調整の検討が必要 ○札幌市内については、中卒者数の減にあわせて、生徒急増期に新設した高校を中心とした再編を含め、公立高校全体での定員調整の検討が必要 ○欠員が４０人以上生じている学校について、学科の見直しや定員調整などについて検討が必要	
札 幌 西	8		8	-4					
札 幌 南	8		8	-2					
札 幌 北	8		8	-2					
札幌月寒	7		7	0		普＋１			
札幌啓成	8		8	0					
札幌北陵	7		7	0		普＋１			
単　札幌手稲	7		7	0		普＋１			
フ　札幌丘珠	7		7	-1		普＋１ 〔フィールド制転換〕 （計画変更）			
札幌西陵	7		7	28					
単　札幌白石	7		7	-1					
単　札幌東陵	8		8	17	普▲１				
札幌南陵	4		4	24					
札幌東豊	6→4		4	27	〔計画決定時に公表〕				Ｒ２入選　２次募集後学級減
総　札幌厚別	7		7	-1					
札幌真栄	4		4	4	普＋１				
フ 札幌あすかぜ	7→6		6	28	〔計画決定時に公表〕				Ｒ２入選　２次募集後学級減
札幌稲雲	7		7	0					
フ　札幌平岡	6		6	0					
単　札幌英藍	8		8	0	普▲１				

学校名	令和２年度（2020年度）の状況 学科及び募集学級数 普通	職業	計	Ｒ２（2020）欠員	令和３年度（2021年度）	令和４年度（2022年度）	令和５年度（2023年度）	令和６～９年度（2024～2027年度）までの見通し	摘要
単　札幌白陵	4		4	19					
札幌国際情報	4	工　1 商　3	8	0					
江　　別	5	商　2 家　1	8	0	商▲１ （計画変更）				
フ　野　　幌	4→3		3	20	〔計画決定時に公表〕	新たな 特色ある高校 〔フィールド制転換〕 （計画変更）			Ｒ２入選　２次募集後 学級減
単　大　　麻	7		7	0					
千　　歳	6	商　2	8	7					
フ　千歳北陽	5→4		4	18	〔計画決定時に公表〕	普→総 新たな 特色ある高校 〔フィールド制転換〕 （計画変更）			Ｒ２入選　２次募集後 学級減
単　北 広 島	8		8	−1	普▲１				
北広島西	7		7	39					
石 狩 南	7		7	0					
当　　別	2	農　1 家　1	4	74					
恵 庭 南	7		7	3					
恵 庭 北	7		7	26		普＋１			
札幌工業		工　8	8	10					
札幌琴似工業		工　8	8	9					
札幌東商業		商　8	8	20					
総　石狩翔陽	8		8	0					
単 *市立札幌旭丘	8		8	−4					
*市立札幌藻岩	8		8	−1	普▲２ 単位制導入				
*市立札幌平岸	8		8	−1					
単 *市立札幌清田	6		6	−1					
中等 *市立札幌開成	4		4	5					コズモサイエンス科単位制
*市立札幌新川	8		8	−2					
*市立札幌啓北商業		商　6	6	−1					
44校	262→257	41	298	356	普▲５ 商▲１ 普＋１	普＋５			

後志学区高校配置計画案

区　分	R２ (2020)	R３ (2021)	R４ (2022)	R５ (2023)	R６ (2024)	R７ (2025)	R８ (2026)	R９ (2027)	令和３～９ (2021～2027)年までの増減	令和６～９ (2024～2027)年までの増減
学区内中卒者数	1, 454	1, 421	1, 429	1, 406	1, 363	1, 368	1, 339	1, 304	▲ 150	▲ 102
対前年増減		▲ 33	＋ 8	▲ 23	▲ 43	＋ 5	▲ 29	▲ 35		
小樽市中卒者数	（ 762 ）	（ 783 ）	（ 769 ）	（ 729 ）	（ 715 ）	（ 705 ）	（ 676 ）	（ 685 ）	▲ 77	▲ 44
対前年増減		＋ 21	▲ 14	▲ 40	▲ 14	▲ 10	▲ 29	＋ 9		

学校名	令和２年度(2020年度)の状況 学科及び募集学級数			R２(2020)欠員	令和３年度(2021年度)	令和４年度(2022年度)	令和５年度(2023年度)	令和６～９年度（2024～2027年度）までの見通し	摘要
	普通	職業	計						
小樽潮陵	6		6	0			普▲1	○４年間で１～２学級相当の調整が必要 ○欠員の状況や学校・学科の配置状況を考慮し、小樽市内において定員調整の検討が必要 ○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、在り方の検討が必要 ○定時制課程について、５月１日現在の第１学年の在籍者数が１０人未満となり、その後も生徒数の増が見込まれない場合は、再編整備の検討が必要としているが、定時制課程の在り方については、国において検討が進められているところであり、こうした国の動向も踏まえることが必要 （小樽潮陵、小樽未来創造）	
単　小樽桜陽	5		5	-1					
単 小樽未来創造		工　2 商　2	4	37					
小樽水産		水　4	4	0					
総　余市紅志	2		2	38					
単　岩　内	3→2	商　1	3	37	（計画決定時に公表）				寿都の協力校 Ｒ２入選　２次募集後学級減
地　寿　都	1		1	13					
単　倶知安	4		4	34					蘭越の協力校
地　蘭　越	1		1	27					再編整備留保
倶知安農業		農　1	1	17					
10校	22 →21	10	31	202			普▲1		

胆振西学区高校配置計画案

区　分	R２ (2020)	R３ (2021)	R４ (2022)	R５ (2023)	R６ (2024)	R７ (2025)	R８ (2026)	R９ (2027)	令和３～９ (2021～2027)年までの増減	令和６～９ (2024～2027)年までの増減
学区内中卒者数	1,486	1,364	1,390	1,350	1,325	1,220	1,199	1,200	▲ 286	▲ 150
対前年増減		▲ 122	＋ 26	▲ 40	▲ 25	▲ 105	▲ 21	＋ 1		
室蘭市中卒者数	(631)	(603)	(548)	(540)	(561)	(520)	(518)	(537)	▲ 94	▲ 3
対前年増減		▲ 28	▲ 55	▲ 8	＋ 21	▲ 41	▲ 2	＋ 19		
登別市中卒者数	(423)	(397)	(436)	(424)	(400)	(354)	(359)	(345)	▲ 78	▲ 79
対前年増減		▲ 26	＋ 39	▲ 12	▲ 24	▲ 46	＋ 5	▲ 14		
伊達市中卒者数	(311)	(262)	(279)	(283)	(273)	(254)	(221)	(232)	▲ 79	▲ 51
対前年増減		▲ 49	＋ 17	＋ 4	▲ 10	▲ 19	▲ 33	＋ 11		

学校名	令和２年度(2020年度)の状況 学科及び募集学級数 普通	職業	計	R２(2020)欠員	令和３年度(2021年度)	令和４年度(2022年度)	令和５年度(2023年度)	令和６～９年度（2024～2027年度）までの見通し	摘要
室 蘭 栄	6		6	0			普▲1	○４年間で３～４学級相当の調整が必要 ○中卒者数や欠員の状況、学校・学科の配置状況を考慮し、室蘭市内において再編整備を含めた定員調整の検討が必要 ○欠員が４０人以上生じている学校について、学科の見直しや定員調整などについて検討が必要	
単 室蘭清水丘	4		4	0					
総 室蘭東翔	4		4	0					
室蘭工業		工 4	4	44					
登別青嶺	4		4	22	普▲1 単位制導入 (計画変更)				
中等 登別明日	2		2	8					
伊 達	3		3	30	普▲3				虻田の協力校
伊達緑丘	4→3		3	11	普▲3				Ｒ２入選 ２次募集後学級減
新設校					普＋6 単位制導入				伊達校舎を使用
地 虻 田		商 1	1	24					再編整備留保
*壮 瞥		農 1	1	15					
10校	27 →26	6	32	154	普▲7 普＋6		普▲1		

胆振東学区高校配置計画案

区　分	R２ (2020)	R３ (2021)	R４ (2022)	R５ (2023)	R６ (2024)	R７ (2025)	R８ (2026)	R９ (2027)	令和３～９ (2021～2027)年までの増減	令和６～９ (2024～2027)年までの増減
学区内中卒者数	1, 808	1, 700	1, 747	1, 669	1, 693	1, 690	1, 674	1, 617	▲ 191	▲ 52
対前年増減		▲ 108	＋ 47	▲ 78	＋ 24	▲ 3	▲ 16	▲ 57		
苫小牧市中卒者数	(1, 552)	(1, 452)	(1, 496)	(1, 459)	(1, 483)	(1, 447)	(1, 449)	(1, 434)	▲ 118	▲ 25
対前年増減		▲ 100	＋ 44	▲ 37	＋ 24	▲ 36	＋ 2	▲ 15		

学校名	令和２年度(2020年度)の状況 学科及び募集学級数 普通	職業	計	R２(2020)欠員	令和３年度(2021年度)	令和４年度(2022年度)	令和５年度(2023年度)	令和６～９年度（2024～2027年度）までの見通し	摘要
苫小牧東	6		6	-1				○４年間で０～１学級相当の調整が必要 ○これまでの調整や学校・学科の配置状況を考慮し、苫小牧市内及び苫小牧市周辺町において、再編整備を含めた定員調整の検討が必要 ○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、在り方の検討が必要	厚真の協力校
苫小牧西	4		4	0					穂別の協力校
単　苫小牧南	4		4	19					
苫小牧工業		工　6	6	0					
〔苫小牧工業〕		〔工2〕	〔2〕	〔53〕	〔　工▲1　〕				
苫小牧総合経済		商　4	4	17	商▲1				
白老東	2		2	8					
地　厚　真	1		1	6					
地　穂　別	1		1	30					再編整備留保
追　分	1		1	8					
中高　鵡　川	2		2	32					
10校	21	10	31	119	商▲1 〔工▲1〕				

日高学区高校配置計画案

区　分	R２ (2020)	R３ (2021)	R４ (2022)	R５ (2023)	R６ (2024)	R７ (2025)	R８ (2026)	R９ (2027)	令和３～９ (2021～2027)年までの増減	令和６～９ (2024～2027)年までの増減
学区内中卒者数	514	509	550	503	491	468	479	456	▲ 58	▲ 47
対前年増減		▲ 5	＋ 41	▲ 47	▲ 12	▲ 23	＋ 11	▲ 23		
浦河町中卒者数	（ 100 ）	（ 97 ）	（ 90 ）	（ 90 ）	（ 95 ）	（ 72 ）	（ 91 ）	（ 67 ）	▲ 33	▲ 23
対前年増減		▲ 3	▲ 7	± 0	＋ 5	▲ 23	＋ 19	▲ 24		

学校名	令和２年度(2020年度)の状況 学科及び募集学級数 普通	職業	計	R２(2020)欠員	令和３年度(2021年度)	令和４年度(2022年度)	令和５年度(2023年度)	令和６～９年度（2024～2027年度）までの見通し	摘要
単　静　内	5→4		4	6	計画決定時に公表			○４年間で１～２学級相当の調整が必要 ○中卒者数や欠員の状況を考慮し、学区全体の高校配置の在り方について検討が必要 ○小規模校について、中卒者数や地元からの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、在り方の検討が必要 ○第１学年１学級の高校のうち、地理的状況から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い高校については、教育環境の維持向上を図るため、地域連携特例校の導入の検討が必要 ○地域連携特例校について、５月１日現在の在籍者数が２０人未満となった場合は、所在市町村をはじめとした地域における、高校の教育機能の維持向上に向けた具体的取扱とその効果を勘案した上で、再編整備の留保の検討が必要	平取の協力校 Ｒ２入選　２次募集後学級減
静内農業		農　2	2	39					
富　川	1		1	16					
地　平　取	1		1	21					
総　浦　河	4→3		3	22	計画決定時に公表				Ｒ２入選　２次募集後学級減
中高　*え り も	2		2	46					
6校	13 →11	2	13	150					

渡島学区高校配置計画案

区　分	R２ (2020)	R３ (2021)	R４ (2022)	R５ (2023)	R６ (2024)	R７ (2025)	R８ (2026)	R９ (2027)	令和３～９ (2021～2027)年までの増減	令和６～９ (2024～2027)年までの増減
学区内中卒者数	3, 125	2, 963	2, 983	2, 781	2, 939	2, 767	2, 659	2, 699	▲ 426	▲ 82
対前年増減		▲ 162	＋ 20	▲ 202	＋ 158	▲ 172	▲ 108	＋ 40		
函館市中卒者数	(1, 972)	(1, 858)	(1, 921)	(1, 778)	(1, 898)	(1, 784)	(1, 738)	(1, 755)	▲ 217	▲ 23
対前年増減		▲ 114	＋ 63	▲ 143	＋ 120	▲ 114	▲ 46	＋ 17		
北斗市中卒者数	(446)	(432)	(452)	(421)	(449)	(396)	(364)	(381)	▲ 65	▲ 40
対前年増減		▲ 14	＋ 20	▲ 31	＋ 28	▲ 53	▲ 32	＋ 17		

学校名	令和２年度(2020年度)の状況 学科及び募集学級数 普通	職業	計	R２(2020)欠員	令和３年度(2021年度)	令和４年度(2022年度)	令和５年度(2023年度)	令和６～９年度（2024～2027年度）までの見通し	摘要
函館中部	6		6	-1	普▲1	普▲1 理＋1 (計画変更)		○４年間で１～２学級相当の調整が必要 ○中卒者数やこれまでの調整、学校・学科の配置状況を考慮し、函館市内において、定員調整の検討が必要 ○中卒者数や欠員の状況を考慮し、学校・学科の配置の在り方も含め、北斗市内において、再編整備を含めた定員調整の検討が必要 ○欠員が４０人以上生じている学校について、学科の見直しや定員調整などについて検討が必要 ○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、在り方の検討が必要 ○地域連携特例校について、５月１日現在の在籍者数が２０人未満となった場合は、所在市町村をはじめとした地域における、高校の教育機能の維持向上に向けた具体的取扱とその効果を勘案した上で、再編整備の留保の検討が必要 　また、再編整備が留保された場合にあっても、５月１日現在の第１学年の在籍者数が２年連続して１０人未満となった場合は、再編整備を進めることとしているため、本年度１０人未満となっている高校については、生徒数の確保に向け、一層魅力ある高校づくりが必要	南茅部の協力校
単　函館西	6		6	0					松前の協力校
単　*市立函館	6		6	0			普▲1		
函館水産		水　4	4	20					
函館商業		商　4	4	1					福島商業の協力校
函館工業		工　5	5	0					
地　南茅部	1		1	26					再編整備留保
上　磯	1		1	22					
七　飯	3		3	1					
大野農業		農　3	3	47					
地　松　前	1		1	26					
*知　内	2		2	7					
地　福島商業		商　1	1	32					再編整備留保
八　雲	2	商　1	3	45					長万部の協力校
総　森	2→1		1	4	(計画決定時に公表)				Ｒ２入選　２次募集後学級減
地　長万部	1		1	20					
16校	31→30	18	48	250	普▲1	普▲1 理＋1	普▲1		

檜山学区高校配置計画案

区　分	R２ (2020)	R３ (2021)	R４ (2022)	R５ (2023)	R６ (2024)	R７ (2025)	R８ (2026)	R９ (2027)	令和３～９ (2021～2027)年までの増減	令和６～９ (2024～2027)年までの増減
学区内中卒者数	245	243	226	221	189	203	214	199	▲ 46	▲ 22
対前年増減		▲ 2	▲ 17	▲ 5	▲ 32	＋ 14	＋ 11	▲ 15		
江差町中卒者数	（ 56 ）	（ 52 ）	（ 44 ）	（ 57 ）	（ 42 ）	（ 38 ）	（ 35 ）	（ 32 ）	▲ 24	▲ 25
対前年増減		▲ 4	▲ 8	＋ 13	▲ 15	▲ 4	▲ 3	▲ 3		

学校名	令和２年度(2020年度)の状況 学科及び募集学級数			R２(2020)欠員	令和３年度(2021年度)	令和４年度(2022年度)	令和５年度(2023年度)	令和６～９年度（2024～2027年度）までの見通し	摘要
	普通	職業	計						
単　江　差	3		3	30				○４年間で０～１学級相当の調整が必要 ○中卒者数や欠員の状況を考慮し、学区全体の高校配置の在り方について検討が必要 ○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、在り方の検討が必要	上ノ国の協力校
地　上ノ国	1		1	23					再編整備留保
総　檜山北	2		2	32					
中高　*奥　尻	1		1	9					
4校	7	0	7	94					

上川南学区高校配置計画案

区　分	R２(2020)	R３(2021)	R４(2022)	R５(2023)	R６(2024)	R７(2025)	R８(2026)	R９(2027)	令和３～９(2021～2027)年までの増減	令和６～９(2024～2027)年までの増減
学区内中卒者数	3, 597	3, 433	3, 500	3, 337	3, 312	3, 213	3, 196	3, 173	▲ 424	▲ 164
対前年増減		▲ 164	＋ 67	▲ 163	▲ 25	▲ 99	▲ 17	▲ 23		
旭川市中卒者数	(2, 730)	(2, 620)	(2, 717)	(2, 562)	(2, 569)	(2, 486)	(2, 444)	(2, 449)	▲ 281	▲ 113
対前年増減		▲ 110	＋ 97	▲ 155	＋ 7	▲ 83	▲ 42	＋ 5		
富良野市中卒者数	(186)	(167)	(166)	(159)	(160)	(138)	(168)	(151)	▲ 35	▲ 8
対前年増減		▲ 19	▲ 1	▲ 7	＋ 1	▲ 22	＋ 30	▲ 17		

学校名	令和２年度(2020年度)の状況 学科及び募集学級数 普通	職業	計	R２(2020)欠員	令和３年度(2021年度)	令和４年度(2022年度)	令和５年度(2023年度)	令和６～９年度（2024～2027年度）までの見通し	摘要
旭 川 東	6		6	0				○４年間で２～３学級相当の調整が必要 ○中卒者数やこれまでの調整などを考慮し、旭川市内や旭川市周辺町及び富良野市や富良野市周辺町において、学校・学科の配置の在り方を含めた再編整備や定員調整の検討が必要 ○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、在り方の検討が必要 ○第１学年１学級の高校のうち、地理的状況等から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い高校については、教育環境の維持向上を図るため、地域連携特例校の導入の検討が必要 ○定時制課程について、５月１日現在の第１学年の在籍者数が１０人未満となり、その後も生徒数の増が見込まれない場合は、再編整備の検討が必要としているが、定時制課程の在り方については、国において検討が進められているところであり、こうした国の動向も踏まえることが必要（旭川商業）	
旭 川 西	6		6	0	普▲１ 単位制導入 （計画変更）				
単　旭 川 北	6		6	-2			普▲１		
総　旭 川 南	6		6	0			総▲１		
単　旭川永嶺	6		6	-2			普▲１		
旭川商業		商　6	6	0	商▲１				
旭川工業		工　6	6	1					
旭川農業		農　4	4	2					
鷹　　栖	1		1	0					
東　　川	2		2	0					
美　　瑛	2→1		1	4	（計画決定時に公表）				Ｒ２入選　２次募集後学級減
中高　上　　川	1		1	22					
単　富 良 野	4		4	24					
富良野緑峰		商　1 農　1 工　1	3	51					
上富良野	1		1	9					
*南富良野	1		1	27					
16校	42→41	19	60	136	普▲１ 商▲１		普▲２ 総▲１		

上川北学区高校配置計画案

区　分	R２ (2020)	R３ (2021)	R４ (2022)	R５ (2023)	R６ (2024)	R７ (2025)	R８ (2026)	R９ (2027)	令和３～９ (2021～2027)年までの増減	令和６～９ (2024～2027)年までの増減
学区内中卒者数	470	467	474	454	431	430	395	401	▲ 69	▲ 53
対前年増減		▲ 3	＋ 7	▲ 20	▲ 23	▲ 1	▲ 35	＋ 6		
士別市中卒者数	(138)	(143)	(135)	(145)	(118)	(127)	(112)	(115)	▲ 23	▲ 30
対前年増減		＋ 5	▲ 8	＋ 10	▲ 27	＋ 9	▲ 15	＋ 3		
名寄市中卒者数	(207)	(184)	(228)	(201)	(202)	(184)	(174)	(190)	▲ 17	▲ 11
対前年増減		▲ 23	＋ 44	▲ 27	＋ 1	▲ 18	▲ 10	＋ 16		

学校名	令和２年度(2020年度)の状況 学科及び募集学級数 普通	職業	計	R２(2020)欠員	令和３年度(2021年度)	令和４年度(2022年度)	令和５年度(2023年度)	令和６～９年度（2024～2027年度）までの見通し	摘要
士別翔雲	3	商　1	4	41				○４年間で１～２学級相当の調整が必要 ○欠員が４０人以上生じている学校について、学科の見直しや定員調整などについて検討が必要	下川商業の協力校
地　下川商業		商　1	1	4					
名　寄	3		3	26			※		美深の協力校
地　美　深	1		1	11					
産　名寄産業		工　1 農　1 家　1	3	63			※		
総　*剣　淵	1		1	23					
*おといねっぷ美術工芸	1		1	0					
7校	9	5	14	168					

※名寄市内において、望ましい学校規模を下回る学校があることや欠員の状況を考慮するとともに、今後の市の検討結果を勘案し、再編整備を含めた早急な定員調整の検討が必要。

留萌学区高校配置計画案

区　分	R２ (2020)	R３ (2021)	R４ (2022)	R５ (2023)	R６ (2024)	R７ (2025)	R８ (2026)	R９ (2027)	令和３～９ (2021～2027)年までの増減	令和６～９ (2024～2027)年までの増減
学区内中卒者数	331	301	289	307	280	273	300	262	▲ 69	▲ 45
対前年増減		▲ 30	▲ 12	＋ 18	▲ 27	▲ 7	＋ 27	▲ 38		
留萌市中卒者数	（ 142 ）	（ 161 ）	（ 136 ）	（ 145 ）	（ 124 ）	（ 124 ）	（ 123 ）	（ 125 ）	▲ 17	▲ 20
対前年増減		＋ 19	▲ 25	＋ 9	▲ 21	± 0	▲ 1	＋ 2		

学校名	令和２年度(2020年度)の状況 学科及び募集学級数			R２(2020)欠員	令和３年度(2021年度)	令和４年度(2022年度)	令和５年度(2023年度)	令和６～９年度（2024～2027年度）までの見通し	摘要
	普通	職業	計						
単　留　萌	4	工 1 商 1	6	63				○４年間で１～２学級相当の調整が必要 ○中卒者数や欠員の状況を考慮した定員調整の検討が必要 ○欠員が４０人以上生じている学校について、学科の見直しや定員調整などについて検討が必要 ○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、在り方の検討が必要	苫前商業の協力校 普通科単位制
羽　幌	2		2	29					
地　苫前商業		商 1	1	27					再編整備留保
天　塩	2		2	37					
遠別農業		農 1	1	20					
5校	8	4	12	176					

宗谷学区高校配置計画案

区　分	R２ (2020)	R３ (2021)	R４ (2022)	R５ (2023)	R６ (2024)	R７ (2025)	R８ (2026)	R９ (2027)	令和３～９ (2021～2027)年までの増減	令和６～９ (2024～2027)年までの増減
学区内中卒者数	512	504	500	464	450	427	405	391	▲ 121	▲ 73
対前年増減		▲ 8	▲ 4	▲ 36	▲ 14	▲ 23	▲ 22	▲ 14		
稚内市中卒者数	(273)	(264)	(269)	(240)	(229)	(229)	(224)	(208)	▲ 65	▲ 32
対前年増減		▲ 9	＋5	▲ 29	▲ 11	± 0	▲ 5	▲ 16		

学校名	令和２年度(2020年度)の状況 学科及び募集学級数 普通	職業	計	R２(2020)欠員	令和３年度(2021年度)	令和４年度(2022年度)	令和５年度(2023年度)	令和６～９年度（2024～2027年度）までの見通し	摘要
稚　内	3	商 1 看 1	5	31				○４年間で１～２学級相当の調整が必要 ○中卒者数やこれまでの定員調整の状況、欠員の状況を考慮した定員調整の検討が必要 ○欠員が４０人以上生じている学校について、中卒者数も考慮し、学科の見直しや定員調整などについて早急な検討が必要 ○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、在り方の検討が必要 ○第１学年１学級の高校のうち、地理的状況から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い高校については、教育環境の維持向上を図るため、地域連携特例校の導入の検討が必要 ○定時制課程について、５月１日現在の第１学年の在籍者数が１０人未満となり、その後も生徒数の増が見込まれない場合は、再編整備の検討が必要としているが、定時制課程の在り方については、国において検討が進められているところであり、こうした国の動向も踏まえることが必要（稚内）	豊富の協力校
地　豊　富	1		1	19					
浜 頓 別	1		1	12					
枝　幸	2		2	28					
利　尻	1	商 1	2	58					
礼　文	1		1	19					
6校	9	3	12	167					

オホーツク中学区高校配置計画案

区　分	R２ (2020)	R３ (2021)	R４ (2022)	R５ (2023)	R６ (2024)	R７ (2025)	R８ (2026)	R９ (2027)	令和３～９ (2021～2027)年までの増減	令和６～９ (2024～2027)年までの増減
学区内中卒者数	1, 235	1, 131	1, 171	1, 142	1, 187	1, 102	1, 172	1, 055	▲ 180	▲ 87
対前年増減		▲ 104	＋ 40	▲ 29	＋ 45	▲ 85	＋ 70	▲ 117		
北見市中卒者数	(938)	(865)	(877)	(910)	(923)	(838)	(888)	(805)	▲ 133	▲ 105
対前年増減		▲ 73	＋ 12	＋ 33	＋ 13	▲ 85	＋ 50	▲ 83		

学校名	令和２年度(2020年度)の状況 学科及び募集学級数 普通	職業	計	R２(2020)欠員	令和３年度(2021年度)	令和４年度(2022年度)	令和５年度(2023年度)	令和６～９年度（2024～2027年度）までの見通し	摘要
北見北斗	6		6	2		普▲１ 理＋１ (計画変更)		○４年間で１～２学級相当の調整が必要 ○中卒者数や欠員の状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、北見市内で再編を含めた定員調整の検討が必要 ○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、在り方の検討が必要 ○地域連携特例校について、５月１日現在の在籍者数が２０人未満となった場合は、所在市町村をはじめとした地域における、高校の教育機能の維持向上に向けた具体的取扱とその効果を勘案した上で、再編整備の留保の検討が必要 　また、再編整備が留保された場合にあっても、５月１日現在の第１学年の在籍者数が２年連続して１０人未満となった場合は、再編整備を進めることとしているため、本年度１０人未満となっている高校については、生徒数の確保に向け、一層魅力ある高校づくりが必要	常呂の協力校
単　北見柏陽	5		5	6					佐呂間の協力校
フ　北見緑陵	4		4	0	普▲１ 単位制導入 (フィールド制転換) (計画変更)				
北見工業		工　3	3	28					
北見商業		商　3	3	0					
置　戸		福　1	1	30					再編整備留保
総　留辺蘂	1		1	26			普▲１		
地　佐呂間	1		1	28					
地　常　呂	1		1	34					再編整備留保
訓子府	1		1	20					
地　津　別	1		1	16					
美　幌	2	農　2	4	95			▲１ (学科検討中)		津別の協力校
12校	22	9	31	285	普▲１	普▲１ 理＋１	普▲１ (学科検討中)▲１		

オホーツク東学区高校配置計画案

区　分	R２ (2020)	R３ (2021)	R４ (2022)	R５ (2023)	R６ (2024)	R７ (2025)	R８ (2026)	R９ (2027)	令和３～９ (2021～2027)年までの増減	令和６～９ (2024～2027)年までの増減
学区内中卒者数	503	510	494	439	500	464	466	482	▲ 21	＋ 43
対前年増減		＋ 7	▲ 16	▲ 55	＋ 61	▲ 36	＋ 2	＋ 16		
網走市中卒者数	(276)	(306)	(269)	(238)	(256)	(247)	(252)	(259)	▲ 17	＋ 21
対前年増減		＋ 30	▲ 37	▲ 31	＋ 18	▲ 9	＋ 5	＋ 7		

学校名	令和２年度(2020年度)の状況 学科及び募集学級数 普通	職業	計	R２(2020)欠員	令和３年度(2021年度)	令和４年度(2022年度)	令和５年度(2023年度)	令和６～９年度（2024～2027年度）までの見通し	摘要
単　網走南ケ丘	4		4	5				○４年間で１～２学級相当の調整が必要 ○中卒者数や欠員の状況を考慮した定員調整の検討が必要 ○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、在り方の検討が必要	清里の協力校
網走桂陽	2	商　2	4	39					
女 満 別	1		1	30	普▲1				
〔*東藻琴〕		〔農1〕	〔1〕	〔15〕	〔　農▲1　〕				
*新設校					総＋1				女満別・東藻琴の両校舎を使用
総　斜　里	2→1		1	8	〔計画決定時に公表〕				R２入選　２次募集後学級減
地　清　里	1		1	8					
5校	10→9	2	11	90	普▲1、〔農▲1〕 総＋1				

オホーツク西学区高校配置計画案

区　分	R２ (2020)	R３ (2021)	R４ (2022)	R５ (2023)	R６ (2024)	R７ (2025)	R８ (2026)	R９ (2027)	令和３～９ (2021～2027)年までの増減	令和６～９ (2024～2027)年までの増減
学区内中卒者数	476	456	431	425	399	397	416	413	▲ 63	▲ 12
対前年増減		▲ 20	▲ 25	▲ 6	▲ 26	▲ 2	＋ 19	▲ 3		
紋別市中卒者数	（ 144 ）	（ 157 ）	（ 142 ）	（ 142 ）	（ 126 ）	（ 123 ）	（ 139 ）	（ 145 ）	＋ 1	＋ 3
対前年増減		＋ 13	▲ 15	± 0	▲ 16	▲ 3	＋ 16	＋ 6		

学校名	令和２年度(2020年度)の状況 学科及び募集学級数 普通	職業	計	R２(2020)欠員	令和３年度(2021年度)	令和４年度(2022年度)	令和５年度(2023年度)	令和６～９年度（2024～2027年度）までの見通し	摘要
単　遠　軽	5		5	37				○４年間で０～１学級相当の調整が必要 ○中卒者数や欠員の状況、学校・学科の配置状況を考慮した定員調整の検討が必要 ○欠員が４０人以上生じている学校について、学科の見直しや定員調整などについて検討が必要 ○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、在り方の検討が必要 ○地域連携特例校について、５月１日現在の第１学年の在籍者数が２０人未満となった場合は、所在市町村をはじめとした地域における、高校の教育機能の維持向上に向けた具体的取組とその効果を勘案した上で、再編整備の留保の検討が必要 ○定時制課程について、５月１日現在の第１学年の在籍者数が１０人未満となり、その後も生徒数の増が見込まれない場合は、再編整備の検討が必要としているが、定時制課程の在り方については、国において検討が進められているところであり、こうした国の動向も踏まえることが必要（遠軽）	
紋　別	3	商 1 工 1	5	75					興部、雄武の協力校
地　興　部	1		1	25					
地　雄　武	1		1	16					
中高　湧　別	2		2	21					
5校	12	2	14	174					

十勝学区高校配置計画案

区　分	R２ (2020)	R３ (2021)	R４ (2022)	R５ (2023)	R６ (2024)	R７ (2025)	R８ (2026)	R９ (2027)	令和３～９ (2021～2027)年までの増減	令和６～９ (2024～2027)年までの増減
学区内中卒者数	2,960	2,862	2,851	2,889	2,862	2,758	2,748	2,760	▲ 200	▲ 129
対前年増減		▲ 98	▲ 11	＋ 38	▲ 27	▲ 104	▲ 10	＋ 12		
帯広市中卒者数	(1,345)	(1,276)	(1,320)	(1,320)	(1,358)	(1,321)	(1,322)	(1,364)	＋ 19	＋ 44
対前年増減		▲ 69	＋ 44	± 0	＋ 38	▲ 37	＋ 1	＋ 42		

学校名	令和２年度(2020年度)の状況 学科及び募集学級数 普通	職業	計	R２(2020)欠員	令和３年度(2021年度)	令和４年度(2022年度)	令和５年度(2023年度)	令和６～９年度（2024～2027年度）までの見通し	摘要
帯広柏葉	7		7	0	普▲1			○４年間で２～３学級相当の調整が必要 ○これまでの調整や生徒の進路動向を考慮し、帯広市内及び帯広市周辺町において、学校・学科の配置の在り方を含めた公立高校全体での再編整備や定員調整の検討が必要 ○欠員が４０人以上生じている学校について、学科の見直しや定員調整などについて検討が必要 ○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、在り方の検討が必要 ○第１学年１学級の高校のうち、地理的状況等から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い高校については、教育環境の維持向上を図るため、地域連携特例校の導入の検討が必要	
単 帯広三条	6		6	0					
帯広緑陽	4		4	1					
帯広工業		工 4	4	0					
帯広農業		農 5	5	6					
*帯広南商業		商 5	5	4					
単 音更	4→3		3	13	計画決定時に公表				R２入選 ２次募集後学級減
芽室	4		4	0					
幕別清陵	3		3	24					
上士幌	2		2	33					
*士幌		農 2	2	25					
総 清水	4→3		3	32	計画決定時に公表				R２入選 ２次募集後学級減
中高 鹿追	2→1		1	12	計画決定時に公表				R２入選 ２次募集後学級減
更別農業		農 2	2	43					
大樹	2→1		1	5	計画決定時に公表				R２入選 ２次募集後学級減
中高 広尾	2		2	34					
総 池田	2		2	35					
本別	2→1		1	12	計画決定時に公表				R２入選 ２次募集後学級減
足寄	2		2	18					
19校	46→41	18	59	297	普▲1				

釧路学区高校配置計画案

区　分	R２ (2020)	R３ (2021)	R４ (2022)	R５ (2023)	R６ (2024)	R７ (2025)	R８ (2026)	R９ (2027)	令和３～９ (2021～2027)年までの増減	令和６～９ (2024～2027)年までの増減
学区内中卒者数	1,878	1,769	1,815	1,790	1,657	1,627	1,585	1,522	▲ 356	▲ 268
対前年増減		▲ 109	＋ 46	▲ 25	▲ 133	▲ 30	▲ 42	▲ 63		
釧路市中卒者数	(1,360)	(1,295)	(1,337)	(1,336)	(1,210)	(1,203)	(1,181)	(1,137)	▲ 223	▲ 199
対前年増減		▲ 65	＋ 42	▲ 1	▲ 126	▲ 7	▲ 22	▲ 44		

学校名	令和２年度(2020年度)の状況 学科及び募集学級数 普通	職業	計	R２(2020)欠員	令和３年度(2021年度)	令和４年度(2022年度)	令和５年度(2023年度)	令和６～９年度（2024～2027年度）までの見通し	摘要
釧路湖陵	6		6	2				○４年間で６～７学級相当の調整が必要 ○これまでの調整や生徒の進路動向を考慮し、釧路市内及び釧路市周辺町において、学校・学科の配置の在り方を含めた公立高校全体での再編整備や定員調整の早急な検討が必要 ○欠員が４０人以上生じている学校について、学科の見直しや定員調整などについて検討が必要 ○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、在り方の検討が必要 ○第１学年１学級の高校のうち、地理的状況等から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い高校については、教育環境の維持向上を図るため、地域連携特例校の導入の検討が必要 ○地域連携特例校について、５月１日現在の第１学年の在籍者数が２０人未満となった場合は、所在市町村をはじめとした地域における、高校の教育機能の維持向上に向けた具体的取組とその効果を勘案した上で、再編整備の留保の検討が必要	阿寒の協力校
単　釧路江南	5		5	-1					
釧路商業		商　4	4	5					
釧路工業		工　5	5	1					
総　釧路明輝	5		5	-1					
フ　*釧路北陽	5		5	0		単位制導入 (フィールド制転換)			
釧 路 東	3		3	4					
地　阿　寒	1		1	24					
白　糠	2→1		1	15	(計画決定時に公表)				R２入選　２次募集後学級減
総　標　茶	3→2		2	16	(計画決定時に公表)				R２入選　２次募集後学級減
弟 子 屈	1		1	14					
厚岸翔洋	1	水　1	2	44					
*霧 多 布	2		2	34					
13校	34 →32	10	42	157					

根室学区高校配置計画案

区　分	R２ (2020)	R３ (2021)	R４ (2022)	R５ (2023)	R６ (2024)	R７ (2025)	R８ (2026)	R９ (2027)	令和３～９ (2021～2027) 年までの増減	令和６～９ (2024～2027) 年までの増減
学区内中卒者数	730	653	673	648	619	585	541	588	▲ 142	▲ 60
対前年増減		▲ 77	＋ 20	▲ 25	▲ 29	▲ 34	▲ 44	＋ 47		
根室市中卒者数	（ 210 ）	（ 201 ）	（ 202 ）	（ 198 ）	（ 175 ）	（ 157 ）	（ 139 ）	（ 151 ）	▲ 59	▲ 47
対前年増減		▲ 9	＋ 1	▲ 4	▲ 23	▲ 18	▲ 18	＋ 12		

学校名	令和２年度(2020年度)の状況 学科及び募集学級数 普通	職業	計	R２(2020)欠員	令和３年度(2021年度)	令和４年度(2022年度)	令和５年度(2023年度)	令和６～９年度（2024～2027年度）までの見通し	摘要
単　根　室	3	商　2	5	23				○４年間で１～２学級相当の調整が必要 ○中卒者数やこれまでの定員調整の状況、欠員の状況を考慮した定員調整の検討が必要 ○欠員が４０人以上生じている学校について、学科の見直しや定員調整などについて検討が必要 ○小規模校について、中卒者数やこれまでの進学状況、学校・学科の配置状況などを考慮し、在り方の検討が必要	
別　海	3	農　1	4	44					
中 標 津	4	商　2	6	66	商▲１				羅臼の協力校
標　津	2→1		1	6	（計画決定時に公表）				Ｒ２入選　２次募集後学級減
*中標津農業		農　2	2	36					
中高・地 羅　臼	1		1	0					
6校	13→12	7	19	175	商▲１				

《全学区共通事項》
　令和３年度（2021年度）以降の各通学区域における生徒の進路動向を見極めて、毎年度再検討するとともに、新たに計画に反映させるものとする。